

安全な暮らしを守る
～子どもの問いから学びを繋ぐ～

授業者 附属池田小学校 高山 翔平

1. 対象 附属池田小学校 第3学年西組(33名)

2. 単元目標

火災から地域の人々の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査した地図などの資料で調べたりしてまとめることで、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために相互に連携して緊急時に対処する体制を取っていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

3. 指導に当たって

(1) 単元を通して育む「グローバル市民」と学習との関連

本単元において「探究力のある人」を育成するために、以下の2つの力をつけたい。1つ目は、社会に潜んでいる課題に当事者意識を持ち、自身が社会参画していく力である。この力は、児童自身が学びをデザインしていくことで育まれていこう。2つ目は、社会に潜んでいるあらゆる課題を比較・関連・統合させて考える力である。この力は、これまでの学びと本単元の学びを比較・検討させるような場面をつくることで育まれていこう。

(2) 教材観

本教材は、火災という地域に見られる具体的な事象を取り上げる。ゆえに、本教材では関係機関の見学やそこの聞き取り調査といった社会科において重要である体験・調査活動といった学習活動に必然性を持たせやすい教材と言える。また、火災が発生した際に消防署の活動だけではすべての火災に対応できない事実から、単に関係機関にとどまらず、それぞれの機関が相互に連携していることにも着目しやすい。このような関係機関の相互間連携は、次単元である「事故や事件から暮らしを守る」にもつなげることができ、自分たちの身の回りの安全に関わる仕事に着目し、考えていく上で大切な単元である。

(3) 児童・生徒観

児童はこれまで池田市の様子や、細河の植木といった地域産業やスーパーマーケットをはじめとした販売に関わる人の工夫や思い、といった学習をしてきた。学習の中で、私たちが当たり前で営んでいる生活の裏には多くの人々が関わっているということに着目させると同時に、それに関わる様々な人々の努力や苦勞が報われるよう当事者意識を持って考えることができるようになりつつある。また、自分たちの生活に関わる人々が抱える社会に潜んでいる課題を解決するために今の自分に何ができるか、あるいは将来の自分に何ができるか考え、実践していくといった社会参画の経験もしている。「火事から暮らしを守る」の単元においてもこれまでの学習を生かし、当事者意識を持ち、自身が社会参画していく力を育みたい。

(4) 指導観

年間を通して自分たちの生活に関わる様々な人々の努力や苦勞を多面的に見ていくことを目標としている。本単元である「火事から暮らしを守る」においても、当事者意識を持ち、自身が社会参画していく力を育てていくために、児童自身に学びを決定・実践させたい。児童自身が単元計画を立て、学び切った後にどのようなアクションを起こしたいのか決定・実践させることで、児童たちは当事者意識を持って学習に取り組むだろう。そして、本単元で獲得した知識とこれまで獲得してきた知識を子どもたち自身が紡いでいき、社会に潜んでいるあらゆる課題には類似性・多様性があるということに気づくことができた時、グローバル市民性が発揮できたとと言えるだろう。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
施設・設備などの配置、消防署による緊急時の備えや対応などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。	連携・協力している関係機関の働きを比較・分類、または結び付けて、相互の関係や従事する人々の働きを考えたり、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考え、選択・判断したりして、適切に表現している。	地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

5. 本単元の指導計画(全8時間)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1	学習の中で解決すべき問いを見出し、単元計画を立てる。	学習の中で解決すべき問いを自分なりに立て、本単元の学習に見通しを持つことができている。		●	●	ノート・発言
2	現場で消火活動を行っている消防士の仕事について調べ、工夫していることを考える。	必要な情報を読み取り、火事が起きた際の現場の消防士の働きや日頃の備えについて理解している。	●			ノート・発言
3	火事の際に通信指令室でどのような仕事をしているか調べ、工夫していることを考える。	必要な情報を読み取り、火事が起きた際の通信指令室の働きについて理解している。	●			ノート・発言
4	消防団がどのような働きをしているか調べ、工夫していることを考える。	必要な情報を読み取り、火事が起きた際の消防団の働きや防火の取り組みについて理解している。	●			ノート・発言
5	火事を防ぐために、池田市ではどのような消防設備を設置しているか調べ、工夫していることを考える。	必要な情報を読み取り、火事が起きた際の消防設備の働きについて理解している。	●			ノート・発言
6 【本時】	これまでの学びを基に、火事から命を守るために自分たちにできることを考える。	火事から命を守るために自分たちにできることは何か、これまでの学習を活かして考えている。		○		パフォーマンス課題
7	消防署見学に行き、自分たちが立てた問いの答えを探したり聞いたりする。	自分たちが立てた問いを解決するために探究的に学習している。		●	●	ノート・発言
8,9	これまでの学びを振り返り、自分たちができる火事から命を守るための活動について考え、まとめる。	自分にできる取り組みをここまで学習を基に再構築し、考えを捉え直すことができる。		○		パフォーマンス課題

●・・・形成的評価(指導に活かす評価) ○・・・総括的評価(記録に残す評価)

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

これまでの学びを基に、火事から命を守るために自分たちにできることを考えることができる。

(2) 本時の評価規準

火事から命を守るために自分たちにできることは何か、今までの学習を活かして考えている。

【思考力・判断力・表現力】

(3) 本時の学習とグローバル市民コモン・ルーブリックとの関連

①項目

探究力のある人

②内容

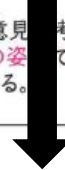
自らの問題として、身の回りの課題に気づき、その解決に向けて取り組むことができる。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 5分	○学習課題を立てる。 「今までの学習でどんなことが分かりました?」「今日のめあては?」	・前時までの学習を振り返ることで学習の見通しを持ち、自分たちで学習課題を立てるようにする。	
学習課題「火事から命を守るために、自分たちにできることは何だろうか?」			
展開 33分	○火事から命を守るためにできることを考える。 「どんなことができるかな?ノートに書いてみましょう。」 ○全体交流する。 「提案をみんなで交流しましょう。」 ○提案の類似性・多様性について交流する。 「みんなの提案で似ているところはありましたか?」「逆に少し違うところはありましたか?」「どの提案が一番大切だと思いますか?」	・自力解決の時間を取り、まず自分の言葉で提案を書くようにする。 ・今までの学習を根拠にし、提案を書くことを意識させるようにする。 ・火事が起きてからできること、火事の前にできることなど多様な答えが予想される。交流の中で観点別に板書し、後の活動につなげられるようにしたい。 ・板書を見て、多様な提案をグルーピングしていく時間を取るようにする。提案の類似性・多様性に注目することで、児童自身が考えの変容や深まりに着目できるようにしたい。	
まとめ 7分	○まとめをノートに書く。 ○振り返りをノートに書く。 振り返りの観点 ①考えが深まったこと・変わったこと ②これからの学習に生かしたいこと ③その他	・左記で挙げた観点を提示し、振り返りを書くようにする。 ・時間があれば数人当て、全体で学びの深化・変容を共有したい。	【思・判・表】火事から命を守るために自分たちにできることは何か、今までの学習を活かして考えている。(ノート・発言)
まとめ「火事から命を守るためには、火事が起きてからできること、火事が起こる前にできることがある。」			

7. 資料:池田地区「グローバル市民」コモン・ループリック

項目	高等学校	中学校	小学校	
			高学年	低学年
主体的な人	これまでの経験や学んだこと, 新たな試みの視点 などから目標を持ち, その達成に向けて 自主的に粘り強く, 創造的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと, 試みの視点 などから目標を持ち, その達成に向けて 自主的に粘り強く 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと, 試みの視点 などから目標を持ち, その達成に向けて 自主的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだことから目標を持ち, その達成に向けて 進んで 取り組むことができる。
つなぐ力のある人	これまでの経験や知識を関連づけて 創造的に 物事を考え, 周りの人たちや異なる文化圏の人たちとの協働を 構想・実践することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え, 地域社会の人たちとの協働を 構想・実践することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え, 学校の人たちと協力して 取り組むことができる。	これまでの経験や知識をもとに物事を考え, 学級の人たちと力を合わせて 取り組むことができる。
探究力のある人	自らの問題として, 身近なコミュニティや世界の出来事 から課題を見出し, その解決に向けて取り組み, 振り返りながら, 創造的に 追究することができる。	自らの問題として, 身近なコミュニティ から課題を見出し, その解決に向けて取り組み, 振り返りながら 追究することができる。	自らの問題として, 身の回り から課題を見出し, その解決に向けて取り組み, 振り返り することができる。	自らの問題として, 身の回りの課題 に気づき, その解決に向けて取り組むことができる。
寛容な人	他者の意見や考え方に対して 共感と傾聴 の姿勢で接し, 多様性を尊重しながら相互理解 を深めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感 の姿勢で接し, 多様性を受け入れ相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接し, 相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接することができる。



自らの問題として, **身の回りの課題**に気づき, その解決に向けて取り組むことができる。